



「春のドライブで菜の花畑」

バプテスト心身障害児(者)を守る会

# 愛の手を

第211号

発行責任者 社会福祉法人 バプテスト心身障害児(者)を守る会  
 重症心身障害施設 久山療育園  
 重症児者医療療育センター  
 理事長 宮崎 信義  
 編集責任者 鍋山 泰三  
 福岡県糟屋郡久山町大字久原 1869  
 ☎(092)976-2281  
 FAX (092)976-2172

2023年度を迎えるにあたりご挨拶申し上げます。

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)も丸3年を超えました。文明が進歩した近年において、誰がこのような感染症が、こんなにも長く続くと思わなかったことでしょうか。「感染症の逆襲」というワードが何かの本にありましたが、まさにそのとおりです。人類がほとんど征服したと思っていた感染症、感染病原体による疾病のために、マスク生活やソーシャルディスタンスといった行動制限によって、不自由な生活をかくも強いられようとは……。とりわけ、オミクロンBA.5株による第8波はこれまでにない、夥しい数の感染者を出し、障害者施設や高齢者施設、医療機関などで多くのクラスターが発生しました。当センターも年末から年始にかけて、入所者17名、スタッフ9名の計26名が相次いで感染し、その感染力の強さ、波及の速さに恐怖すら覚えました。病棟は緊急体制をとりながらゾーニング(感染の波及を防ぐための部屋割りの変更など)のことで、検査や治療、ケアに忙殺されました。幸い重症者を出すことはありませんでした。これはそれまでのワクチン接種、

## 「新年度を迎えて」

センター長 岩永知秋

および感染後の抗ウイルス薬、そして何よりもスタッフ全員の頑張りのおかげであり、本当にスタッフには感謝するばかりです。1月中旬からは福岡県だけでなく全国的に感染者の激減が進み、一息ついたところですが、インフルエンザが久しぶりに流行状況にありま

いことは重なるもので、2月6日に起きたトルコ・シリア大地震は5万人を超す死亡者を出す、大惨事となりました。地震のエネルギーは1995年の阪神淡路大震災の約20倍だったそうです。数百万人の人が家を失う悲惨な状況が伝えられ、同じ地震国の日本に住む者の一人として本当に胸が痛む思いです。

表を行いました。ようやく出口が見えてきたとも思えますが、なお予防のためのワクチン接種は今後も必要となるようです。一般の方たちへの行動制限はかなり緩和されることと思えますが、私たちのような医療・福祉施設においては、感染に弱い利用者の方たちを守るため、もうしばらくは慎重な対処が必要だろうと考えます。

ロシアのウクライナ侵攻も丸1年が過ぎました。ロシアは当初見込みの短期決戦の当てが外れ、ロシア、ウクライナ双方ともどのような形で決着をつけるのか、まさに混沌とした状態が続いています。COVID-19の流行と同様に、誰がこの戦争がこまめにと予想したことでしょう。もちろん中東などで地域紛争は繰り返して起っています。ロシアとNATO・米国という世界の超大国が対峙する戦争が起るとは、皆がまさかと思うことでした。核による恫喝と多くの予備役の動員をかけるロシア、一方自国へ侵攻を受け民間人を含む多くの犠牲者を出しながらも、強い愛国心に裏打ちされたウクライナ、双方とも引くつもりはないようです。前の世紀、20世紀が「戦争の世紀」と称されて、多くの人の反省の上に、もう大きな戦争は懲り懲りだとおもっていたはずなのに……。悪

感染症、戦争、災害といったこれらの災厄は、やはり人類の歴史に付いてまわるものかもしれません。21世紀はかように混沌の世紀の様相を示しているようで、将来に対する不安は払拭できません。わが国を見ても経済の落ち込みは著しく、またこれまで高く評価されてきた治安も全国におよぶ強盗グループの暗躍など、今後の日本が本当に心配になります。しかし、これからの世界を作っていくのは、まぎれもなく私たち一人ひとりなのです。私も年配者の一人ですが、子や孫の世代が誇りと安心感を持てる世界を築くことができるように、少しでもお手伝いをしたいと思えます。今は私たちに与えられた試練のときと考えて、これら乗り越えようとする人々の叡智と勇気を皆が示していかなければなりません、またそう信じたいと思えます。

最後になりましたが、今年11月16、17日の2日間にわたり、西日本重症心身障害施設協議会総会を久山療育園が中心となり、北九州市立総合療育センター、柳川療育センター、障がい児者医療生活支援ホーム虹の家の3施設とともに開催します。開催に関しているご協力をいただくことがあるかと思いますが、どうぞご理解いただきませうようお願いいたします。

## 理念と展望

## 法人・施設の運営と方向性

理事長 宮崎 信義

2020年4月7日に新型コロナウイルス感染症(COVID-19)のパンデミック(世界的流行)により「緊急事態宣言」(1回目)が7都府県に発令(第一波)されました。以来、久山療育園重症児者医療療育センター(以降「園」)、「久山療育園」と略でも、感染対策レベルを5段階に設定し、園内でCOVID-19感染が発症した場合を最高の感染対策レベル5とし、感染対策委員会を頻回に開催し感染対策の園内統一を図って来ました。具体的には、①感染隔離(病室)と②棟増設部分と棟棟単位と園全体のロックダウン)、③ゾーンニング(場所や場面ごと)に、いくつかのレベルでの「清潔」を使い分ける。④PPE(個人防護具)・Personal Protective Equipment、フェイスガード・N95マスク・防水ガウンの着用等です。

2020年4月7日に新型コロナウイルス感染症(COVID-19)のパンデミック(世界的流行)により「緊急事態宣言」(1回目)が7都府県に発令(第一波)されました。以来、久山療育園重症児者医療療育センター(以降「園」)、「久山療育園」と略でも、感染対策レベルを5段階に設定し、園内でCOVID-19感染が発症した場合を最高の感染対策レベル5とし、感染対策委員会を頻回に開催し感染対策の園内統一を図って来ました。具体的には、①感染隔離(病室)と②棟増設部分と棟棟単位と園全体のロックダウン)、③ゾーンニング(場所や場面ごと)に、いくつかのレベルでの「清潔」を使い分ける。④PPE(個人防護具)・Personal Protective Equipment、フェイスガード・N95マスク・防水ガウンの着用等です。

等を健康を守ることに集中して参りました。園内の諸行事や、ミットレーベン・ネットワークによるワークキャンプ奉仕活動も中止や制限せざるを得ず、重症心身障害福祉協会による施設協議会(全国・西日本)も対面開催が困難となり、Zoomによるオンライン会議となりました。2023年度も一日も早く感染が終息して、これまでの創立理念に基づいた運営が可能となることを願っています。これまで「愛の手を」の「創立理念と展望」でも、この間の経過を述べて参りましたが、改めて2023年度の「法人・施設運営の骨子と方向性」について、管理会議で述べてきたことを中心にして提言して参ります。

態を早期に把握することや緊急時にも具体的に即応する体制を整備し規定することです。近年は九州地区でも豪雨災害や地震災害が発生し、以前から懸念されていた東海・南海地震が現実的になっていきます。

先に述べた新型コロナウイルス感染症のクラスター(集団)発生も、重症心身障害施設でも次々に報告され、対処法が提言されています。当園でも小集団ではありましたが、クラスターを経験しました。幸いにも重症化に至っていませんが、今後も気を引き締め参りたいと思います。また、インフルエンザ感染と時期的に重なることから、予防接種も可能な限り徹底したいと思えます。新型コロナウイルス感染症及び対策の推移は、岩永知秋センター長から具体的な対策や情報提供がなされていますので割愛致します。今後の対策については、行政から3月13日から新型コロナウイルス対策としてのマスクの着用について、政府は屋内・屋外を問わず個人の判断に委ねる方針を決定しました。しかし、久山療育園は医療機関であり、病弱な方も多く、マスク着用は継続しています。また5月8日から新型コロナウイルス感染症が「5類」に移行することが予測されています。

久山療育園の法人・施設運営の骨子方向性(管理会議での確認)

(1)2022年度のまとめについて…2022年度の年間主題は、「重症児(者)医療福祉計画の継続・安全安心と更なる進展に」、そして開園祭のテーマは「重症児(者)と共に健康と生活の質の豊かさを」でした。この基礎には新型コロナウイルス感染症対策と終息への願いがありました。しかし、未だに終息に至っていません。これからもめげずに重症心身障害児(者)や職員、ボランティアの方々の健康が支えられますようにセンターが一致しての尽力を願います。

(2)2023年度の展望…2023年度年間主題は、「重症児(者)と共に歩む人々の健康と生き甲斐を求めて」、開園祭テーマは「重症児(者)と共に安全・安楽・安心に努める」と提案致しました。2022年度の主題を継承するものです。一方で新型コロナウイルス感染症(※参考資料参照)の終息後の課題や2024年3月までに義務化されているBCP

(事業継続計画)の策定を完結して参りましょう。

(3)財政健全化プロジェクトの役割と重要性…新型コロナウイルス感染症による在宅事業や短期入所事業の縮小に伴う事業収入の減少がありましたが、これから収支均衡を実現した上での将来計画に留意して参りたいと思います。その根幹においても、久山療育園の創立理念や運営基本方針を堅持しつつ、福祉共同体としての発信(ミットレーベン・ネットワークやボランティア会、諸教会との協働)を継承して参ります。「重症心身障害児者と共に」利用者の必要に応える…2015年度開所した「在宅支援センター」、「重症者ホーム」に続く中長期的な将来計画の策定。

(4)第44回日本重症心身障害福祉協会西日本施設協議会(2023年)の開催担当施設として。会期は2023年11月16日(木)、17日(金)の2日間(万一オンライン形式であれば1日)で、会場は九州大学医学部百年講堂、テーマは「重症児(者)支援の目指す方向」に伴走する医療と療育の課題と致しました。内容は、①特別講演I「強度行動障害を伴う重症児(者)」、②特別講演II「重

症心身障害施設のBCP(事業継続計画)」、③シンポジウム「中高年齢化する重症心身障害児(者)の今日的課題」を計画しています。共同担当施設となつて下さった北九州市立総合療育センター「足立園」、柳川療育センター、障がい児者医療生活支援ホーム「虹の家」とも緊密に協力して、重症児(者)医療福祉の実践事業所として実りある西日本重症心身障害施設協議会となることを願っています。

おわりに

新型コロナウイルス感染症の感染者は減少していますが、まだ終息には至らず、具体性に乏しい「法人・施設運営の骨子と方向性」になりましたが、以下に再確認致します「創立理念の継承」に合致した将来計画に繋げて参ります。

『久山療育園の設立理念』

(1) 設立の目的: 「重症心身障害児に愛の手を」という精神で設立した。重症児が社会の片隅に収容されて生きるのではなく、むしろ地域の中心に位置付けられることを願う。従って、久山療育園は単なる収容施設ではなく、新しい福祉社会づくりの拠点である。(2) 運営基本方針: この働きは、

社会のただ中で障害児と共に生きようとするイエス・キリストの愛の証である。従って久山療育園はキリストの福音を土台として運営されなければならぬ。(3) 療育基本方針: 久山療育園は、病院であり学校であり家庭である。われわれは対象者を技術論的ではなく、全人的にとらえる。そのため、それぞれ最善の職協力を進めることによつて、その専門的領域の働きを全うしなければならぬ。

病氣だとだから人の第15回

「たばこは百害あつて一利なし」

センター長/理事 岩 永 知 秋

■喫煙率は減りました

たばこの話をしましょう。私が子供の頃は、職員室に行けばたばこの煙がもうもうと立ち込めているのが普通でした。大学生の頃も会議室には灰皿があり、会議中に普通に喫煙している人がいたものです。しかしその後、比較的急速に喫煙者は減ってきました。

喫煙率は2020年の厚生労働省国民健康・栄養調査によれば、全体で16.7%でした。

■百害あつて一利なし

20歳の成人から認められるものは酒とたばこです。選挙権はすでに18歳からに変更されましたし、2022年4月から18歳が成人と認められるように法が改正されました。酒とたばこは20歳からそのままです。いずれも嗜好品として分類されていますが、「嗜好品」というのは私は適切でないと思います。お酒は肝臓を傷めたり、アルコール依存になったり、悪酔いして他人からんだりしなければ、おとなの人生の楽しみとしてあつてしかるべきものだと思います。しかし、少なくともたばこはそうではありません。ま

さに百害あつて一利なしです。なぜでしょうか。なぜたばこはだめなのか。たばこの害は、煙に含まれる約200種類にも及ぶ、からだに有害な物質を吸い込むからです。しかも、そのうち70種類以上は発がん物質、つまりがんを引き起こす危険のある物質なのです。たばこの煙は口腔がん、咽頭がん、喉頭がん、食道がん、胃がん、気管支がん、肺がんなど、煙の通路にがんをもたらします。しかし、がんは煙の通り道だけに生じるのでしょうか。ちがいます。煙の通り道以外にも、肝臓がんや大腸がん、すい臓がん、子宮がんなど、いろいろなところにかんを引き起こすところがこわいのです。また、心臓や血管系にたばこの煙は害を及ぼします。狭心症、心筋梗塞、脳卒中(脑梗塞)などの恐ろしい病気の危険因子として知られています。呼吸器系にはCOPD(慢性閉塞性肺疾患、昔は肺気腫と呼ばれていました)を起こし、肺の働きのおおもとになる肺胞を壊します。ひどくなると酸素の取り込みが低下して、24時間の酸素療法が必要になることがあります。また、母親

これまでもで最低の記録が作られたことになり、性別では男性27.1%、女性7.6%でした。年齢で見ると30〜60代男性でその割合が高く、約30%が習慣的に喫煙しているとのこと。そこで、1990年の喫煙率を見てみましょう。男性は53.1%、女性9.7%でした。男性はおよそ半分は減ったことになりました。女性喫煙率の減少はこれに比べると鈍く、この間2004年には12.0%まで増加した時期もありました。

県別では福岡県はどれくら

の喫煙はこどもの喘息を増やすことも、昔から指摘されています。老化が進み介護が必要となるフレイルにも、また認知症にもたばこは関係します。以上のような病気になることが少なくないので、必然的に喫煙者は非喫煙者より寿命が短くなります。また女性には敏感なことだと思えますが、たばこから出る活性酸素により皮膚の組織が壊れやすくなります。すると、喫煙する人はしない人に比べて、肌のしわが増えることが科学的に証明されています。

### ■なぜたばこは簡単にやめられないのか

たばこを吸い始めるとやめるのが大変です。古くは「トムソーヤーの冒険」の著者マーク・トウェインの名言「禁煙ほど簡単なことはない。私なんか何千回禁煙したかわからない。」というのがありますね。なぜやめるのが難しいかと言えば、これはからだにニコチン依存の状態にあるからです。いわば病気の一つと考えた方がいいかもしれません。血液中のニコチンの濃度が下がってくると、たばこを吸いたという欲求が脳に届きます。そこでたばこを吸うと、気管

支や肺からニコチンが吸収されて血液中のニコチン濃度が上がり、脳にその情報が伝わって満足するというわけです。血液のニコチン濃度が下がってはたばこを吸い、下がっては吸いで、あとはこの繰り返しですね。

### ■受動喫煙も被害を受けます

受動喫煙は、喫煙をする人の周囲に及ぼされる害です。配偶者のこともあれば、小さな子供のこともあります。なぜ受動喫煙が悪いかというと、たばこは主流煙(喫煙者が直接吸い込む煙)よりも副流煙(たばこの先から周囲に立ちのぼる煙)の方が有害物質を多く含んでいるからです。たとえば、肺がんのリスクも受動喫煙により非喫煙者でも約2倍に高まります。家庭内に喫煙者がいると、その家庭の子供が喘息になる確率が高まります。ですから本人が禁煙することは、本人だけでなくまさに家族を守ることもなります。

### ■私とたばこ

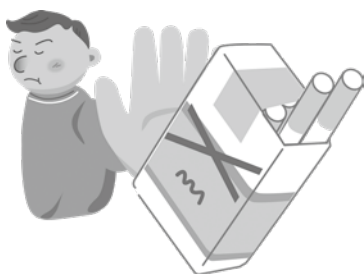
と、ここまでかっこよくたばこの害の話をしてきました。しかし、よくある若気の至りというやつで、私も大学時代

の数年間は喫煙者でした。今から思えば、子どもの頃から喘息もあるのに、そして親からの仕送りの金も使って、本当に親不孝な若者だったと反省することしきりです。大学教養部時代は医学部サッカ一部に所属し、汗を流しました。春、夏の合宿は普段の数倍の密度で練習があり、合宿の期間は全くたばこを吸えなかったことが鮮烈に思い出されます。吸おうにも身体が受け付けないのです。ほかの喫煙者の部員も全く同様でした。いかにたばこが健康に悪いかを実感した期間でした。それでも春の九州山口大会、夏の西日本大会の合宿と試合が終わったら、元の木阿弥でたばこに手が伸びたものでした。卒業時に呼吸器内科医への道を選択したので、卒業試験や国家試験のあとは、死に物狂いで禁煙に取り組みました。患者さんに禁煙を勧める際に、医師が自ら喫煙者であったことは絶対的に説得力に欠けると思っていることでした。自慢できる話では全くありません。医局に入局してからの歓迎会では、たばこの代わりに割りばしを口にくわえて耐え、笑われながらも何とかたばこを卒業することができました。

このような喫煙者の過去は、医師になったのち、喫煙を上から目線で頭ごなしに否定する立場からではなく、ニコチン依存症の人に寄り添う気持ちを育んでくれた気がします。やはり禁煙を達成するのは簡単ではありませんものね。その大変さを経験した私にとっては、喫煙者の過去が医療者としての唯一の利点になったのではないかと思います。呼吸器内科専門医となり、たばこによる健康被害を専門家としてより深く知るようになり、あらためてその怖さを伝えていきたいと思ってきました。軽い気持ちで始めた喫煙が、ニコチン依存症を引き起こす怖さです。若い頃に保健所の友人に頼まれて禁煙教室の講師をしたり、今福岡県たばこ対策推進会議の委員をさせてもらっているのも、私と同じ過ちを若い人にしてほしくないための、私に課せられた義務だと思っからです。

私は喫煙する人が禁煙を試みようとする場合、1回や2回の禁煙の失敗にくじけないようにお伝えします。禁煙はたとえ何度失敗しても、何度でもチャレンジする精神が重要です。毎年5月31日は「世界禁煙デー」と定められており、

世界規模で禁煙の必要性が指摘されています。2020年(延期により2021年開催)の東京オリンピックに向けて、2020年4月から受動喫煙対策法という法律も全面開始となり、加熱式たばこ(いわゆる電子たばこ)も規制されました。加熱式たばこにもニコチンのほか有害物質がいろいろ含まれており、日本呼吸器学会などはこのたばこも吸わないことを推奨しています。福岡県では「福岡県たばこ対策推進会議」が県庁の保健医療学部健康増進課の主導で行われており、私も学識者委員の一人として出席しています。今年1月26日に開催され、禁煙支援、20歳未満の者の喫煙防止、受動喫煙防止をたばこ対策の3本柱として、具体的な取組みについて議論を行ったところです。



# 2023年度予算

2023年3月9日 2022年度第5回理事会にて2023年度予算が承認されました。  
 予算の概要については、以下の通りとなります。

## 2023年度 資金収支予算書

自 2023年4月1日 至 2024年3月31日 単位：千円

科目名	2022年度 予算額 (A)	2021年度 予算額 (B)	増減 (A-B)
《事業活動による収支》			
(収入の部)			
児童福祉事業収入	3,962	3,960	2
障害福祉サービス等事業収入	541,229	538,416	2,813
医療事業収入	818,100	816,410	1,690
経常経費寄附金収入	21,236	23,767	△ 2,531
受取利息配当金収入	2,506	2,500	6
その他の収入	8,557	9,850	△ 1,293
事業活動収入計①	1,395,590	1,394,903	687
(支出の部)			
人件費支出	1,070,000	1,059,839	10,161
事業費支出	178,782	174,205	4,577
事務費支出	112,458	109,859	2,599
事業活動支出計②	1,361,240	1,343,903	17,337
事業活動資金収支差額③=①-②	34,350	51,000	△ 16,650
《施設整備等による収支》			
(収入の部)			
施設整備補助金収入	0	0	0
施設整備等収入計④	0	0	0
(支出の部)			
固定資産取得支出	9,350	14,000	△ 4,650
施設整備等支出計⑤	9,350	14,000	△ 4,650
施設整備等資金収支差額⑥=④-⑤	△ 9,350	△ 14,000	4,650
《その他の活動による収支》			
(収入の部)			
積立資産取崩収入	0	1,557,150	△ 1,557,150
サービス区分間繰入金収入	33,190	42,338	△ 9,148
その他の活動収入計⑦	33,190	1,599,488	△ 1,566,298
(支出の部)			
積立資産積立支出	25,000	1,594,150	△ 1,569,150
サービス区分間繰入金支出	33,190	42,338	△ 9,148
その他の活動支出計⑧	58,190	1,636,488	△ 1,578,298
その他の活動資金収支差額⑨=⑦-⑧	△ 25,000	△ 37,000	12,000
予備費支出⑩	0	0	0
当期資金収支差額合計⑪=③+⑥+⑨-⑩	0	0	0
前期末支払資金残高⑫	443,418	443,418	0
当期末支払資金残高⑬+⑫	443,418	443,418	0

## 1.概況

2023年5月に新型コロナウイルスの感染法上の位置づけが「5類」に移行され、今までの行動制限が緩和される年度となる。しかし、引き続き医療提供体制の確保と感染拡大に万全を期さなければならない状況は変わらないがコロナ関連の助成金の削減や更なる物価上昇、人材確保が難しい状況での人件費上昇など法人の存続において予断の許さない状況は変わらない。

経営会議の中で、毎月の収支分析、予算執行についての協議、収支改善へのアプローチなどを行い、10年後を見据えた中長期計画の策定を行う。

## 2.具体的内容

2023年度事業計画の策定にあたっての主な項目については次のとおりである。

(1)収入部門 687千円増 (前年度補正対比100%)

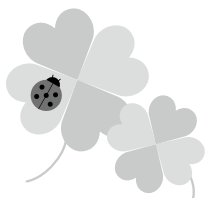
- ①障害福祉サービス等事業収入 2,813千円増  
 入所△5,600千円減：89→90名定員に変更後通年運用  
 ※減少分については、コロナ・物価高騰助成金分(10,000千円)を除いたため  
 通所 +5,800千円増：児童発達支援などのサービスを個室化し、利用者のニーズと融合させて増収を目指す  
 生活介護においても、カンファレンス日の削減や1日平均利用者数の2名増を目標に取り組む
- ②医療事業収入 1,690千円増  
 入院診療費収入+400千円増：定員変更による増(8,400千円)  
 コロナ感染に伴う割増分(△8,000千円)  
 外来診療費収入+1,390千円増：リハビリ・歯科・外来の稼働増

(2)支出部門 17,337千円増 (前年度補正対比101%)

- ①人件費 +10,161千円増  
 人件費比率 76.7% (前年度補正76.0%) +0.7%  
 前年度の人員未補充を予算化  
 年間賞与4.15ヶ月で計上(昨年同カ月)  
 契約職員の時給見直し、処遇改善加算の支給基準の再編
- ②事業費 +4,577千円増  
 給食費+1,500千円増：納入単価値上げによる  
 保健衛生費+1,200千円増：エプロン・手袋などの単価上昇  
 水道光熱費+1,500千円増：電気基本料金、ガス単価上昇による
- ③事務費 +2,599千円増  
 研修研究費+4,200千円増：遠方出張の再開を想定  
 業務委託費+3,000千円増：医事データ提出加算構築委託料など  
 見直し等による△4,600千円減：職員に対する福利厚生費の削減、制服の見直し、  
 印刷物の削減など

(3)固定資産取得支出

介護機器他3,490千円、データ提出加算関連機器3,000千円、温冷配膳車2,860千円 計9,350千円



# 2022年度第46回療育体験研究発表会報告

(3月2日 地域交流ホール)

研修研究委員長／ 笹倉典子

毎年3月に開催される療育体験研究発表会は、各研究グループにとって大団円を迎える日でもあります。今回も興味深い発表がなされました。研究に取り組むこと、またその結果で利用者や周囲のスタッフに良い影響を与えることは多々あります。それに加えて良い事は、毎回異なるメンバーとともにテーマを検討し、探究していくことの面白さです。素朴な疑問をきっかけとしたもの、その時にまとめる必要性を感じたものなどスタートは様々です。

今年度は、限られた時間の中、努力を惜しまずまとめられた5題の発表がありました。すべての研究メンバーに敬意を表します。また、積極的に参加していただいた皆様、的確にご指導・講評を下さった先生方へ深く感謝いたします。



演題1「持つている機能を、自発的に引き出す」

地域療育部通所研究班

濱田彩子ほか

重症児者にとつての発達レベルは一人ひとり違い、しかもアンバランスである。2021年度より当通所を利用されているA氏の、自力による座位を引き出すためのアプローチを行なった。当センターのスタッフや特別支援学校から情報収集を行

ない、アプローチ方法と記録用紙を作成した。職員を意識づけと関わりの機会が増加することにより、①お気に入りのシユシユの鈴を活用することで自力での座位が認められた。②手引き座位の場面では自己主張も見られるようになった。③いつもとは違う場所の時、その場で座位の状態が軸回転が見られた。スタッフが積極的な関わりを促すことで、次第に自発的な動きを引き出すきっかけを探ることができた。今後は統一的な関わりを行なって自力座位の場面を増やしていきたい。

演題2「感染予防対策の現状の把握と今後の課題」

めぐみ棟看護研究班

能登原充幹ほか

新型コロナウイルス感染拡大から3年経過し、感染予防に努める中でめぐみ棟では、利用者のMRSA・多剤耐性緑膿菌検出者が数名ずつ増加していることが明確になった。現状を把握することで継続的な感染予防対策を導きだすことを目的に取り組んだ。アンケート結果で、88%の職員が手洗い手順を意識

して手洗いを行っていた。手洗いチェッカーを8月と12月に実施し、洗い残しは12月の方が減少していた。手指培養検査では手指消毒薬の使用量に比例して検出される菌の総数に差がみられた。8月に手洗いチェッカーを実施して以降、個人持ちの手指消毒薬の使用量が増加していた。手洗いチェッカーにより、自身の手指衛生状況を可視化して把握することで、個人の課題が明確になった。園全体で定期的な手洗いチェッカーを行う体制づくりが効果的な手指衛生の継続につながると考える。

演題3「事務員の接遇向上への取り組み」

管理棟研究班

中神康代ほか

当センターの事務員は中途採用者が多く、事務員ごとに利用者・保護者・業者に対して対応が異なっていた。また、統一的な指導も十分になされていない。今回、福祉の職場マナーガイドブックを参考に基準を示して教育の場を作り、接遇向上を目指した。接遇に関する部署内アンケートでは「挨拶をしている人

としていない人がいる」結果となった。部署外アンケートの意見では「誰に声を掛けたら良いか、カウンター側に背を向けた配置になっているので声を掛けにくい」といった意見もあった。これらの意見を参考にし、挨拶は今後も意識して行えるような工夫を継続したい。

事務員が互いにコミュニケーションがとりやすい、明るい職場環境づくりや、来園者・他部署職員の対応を円滑に行なえることを課題に取り組んでいく。

演題4「重症心身障害者の白内障術後対応について」

ひかり棟看護研究班

佐藤瑠奈ほか

意思決定の難しい重症心身障害者の治療決定は保護者に委ねられることが多い。今回、強度行動障害のあるA氏が白内障手術を受けることとなったため、患部の安静が保てることを目標とした。取り組みとして、術前より病棟職員間で情報を共有・理解し、倫理的配慮を考えながら術後の対応方法と観察項目の指標を作成して臨んだ。結果は本人の適応能力や状

況判断能力が職員の想像を上回り、トラブルなく経過することができた。A氏に付き添う職員を他部署から要請し、必要以上拘束しない工夫をした。拘束の実施はA氏が入床後両手に行ったのみで、鎮静剤や経鼻栄養などの処置は不要に終わった。治療に関する処置や日常生活の変化についてもA氏が協力的であった。これは、これまでの人間関係に加え、介助する時の倫理的配慮を職員個々で考え実践したためと考える。今後、様々な治療や手術が必要となる利用者の増加が考えられる。看護倫理に沿って個々の特性を理解し看護展開していく必要がある。

演題5「SPONTモードを用いた呼吸機能訓練の効果について」

診療部

隈部有理

人工呼吸器が離脱できない最重症心身障害児では呼吸機能への介入が困難である。今回人工呼吸器管理中の小児の入所者に対し、呼吸訓練として週3回程度、日勤帯の3〜6時間程度、自発換気(SPONT)モードを



用いて過ごした。  
 ①呼吸器条件を下げる、可能であれば離脱に向けて安全に施行できる訓練の模索  
 ②昼夜逆転の改善  
 ③自発呼吸を促し、呼吸筋を鍛え、体温上昇を期待  
 ④発熱頻度を減らすことを目的とした。その結果、発熱頻度の減少、肺のコンプライアンスの改善などを認めた。唾液の日内変動や鼻汁の有無などで覚醒状況を判断した。体温については、電気毛布の使用等なども影響したためか低体温になることが減った。呼吸状態改善の要因として①肺内パーカッションベンチレーターの使用  
 ②腹臥位、可能な限り呼吸器条件を下げ自発呼吸を促したことが考えられる。日勤帯の自発換気(SPONT)モードへの切り替えで呼吸状態の改善が示唆された。

メモ帳

- 【1月】▽10日 福岡特別支援学校3学期始業式
- ▽13日 久山町社会福祉法人情報交換会
- ▽19日 全体避難訓練
- ▽19日〜20日 全国重症心身障害児者施設職員研修会施設管理研究コース(Web)
- 【2月】▽14〜22日 通所保護者懇談会
- ▽15日 福岡特別支援学校入学選考試験
- ▽16日 託児所避難・消火訓練
- ▽17日 誕生会
- ▽20日 避難訓練
- ▽27日 保護者会役員との懇談会
- ▽28日 通所成人式
- 【3月】▽2日 療育体験発表会
- ▽3日 ひなまつり
- ▽9日 2022年度第5回 理事会
- ▽16日 消防署立入調査
- 福岡特別支援学校 修了式
- ▽23日 夜間想定避難訓練
- ▽24日 2022年度第3回 評議員会
- 九州地区重心研究会世話人会
- ▽25日 認定看護師研修運営会議

職員の異動 (2023 / 1 / 1 ~ 4 / 1)

【採用】

- 2 / 1付 橋本 美香(看護師)
- 3 / 13付 花本 結花(療育員)
- 4 / 1付 高田 美穂(看護師)
- ▽山本 悠雅(看護師)
- ▽徳田 杏香(准看護師)
- ▽宇都宮真奈(児童指導員)

【退職】

- 1 / 12付 宮崎 柚奈(介護福祉士)
- 1 / 31付 西田 佳苗(介護福祉士)
- ▽齊藤 千尋(療育員)
- 2 / 28付 福島 有紀(介護福祉士)
- ▽下藤 紗妃(事務員)
- 3 / 31付 橋本 治光(内科部長)
- ▽櫻井美千代(リハビリテーシヨン課主任)
- ▽渡辺 愛菜(看護師)
- ▽大坪 ゆき(看護師)
- ▽山田 梨愛(保育士)

# 病棟イベント

## 「今年も楽しんでひなまつり」

今年もひなまつりの季節がやってきました。ひなまつりは、桃の節句。春の訪れを前にみなさんの健やかな健康と成長を願うお祭りです。

ひかり棟では今年もひなまつりのジエンガゲームをしました。ひな祭りには欠かせないお内裏様とお雛様は、今年の干支である兎年の2名の方にお願いました。

お内裏様・お雛様チームに分かれてゲーム開始です。

ルールは高く積みあがったジエンガを倒してしまわないように引き抜いていくというもので、倒してしまった回数が少ない方のチームが勝利となります。

時には「そおーっと」時には「大胆に」ジエンガを倒さないようにチームで力を合わせて楽しみました。

ジエンガが倒れると、「わー」という声が響きます。時には、「おー」という驚いた声や「きゃー」という楽しい声も聞こえてきました。

その声を聞いてだんだんと皆さんの表情がこやかに、笑顔になっていきましたね。  
1人1回ジエンガを楽しんだ後は結果発表です。ジエンガが倒れた回数はお雛様チームが3



回、お内裏様チームが6回でした。見事、お雛様チームが勝利し、温かい拍手でゲームは終了しました。しかし、どちらのチームもみんな力を合わせる事ができましたね。  
みんなでゲームをしたり、笑ったり、驚いたり、とても楽しいひなまつりを過ごせました。  
今年度も健やかに健康と成長を願って楽しいことがたくさん1年にしていきましょう。  
(ひかり棟 保育士 山下莉奈)

## 「おにぎりとーぶくはーちー」

2月3日。  
「ダダンダダン：ダダンダダン：」

聞き覚えのあるター○ネーターの音楽と共に、彼らはやってきました。

彼らとは…一体誰なのか…。そう、鬼さんたちです！

実はめぐみ棟は前回の節分で鬼さんが来ていません。

2年ぶりの鬼さんたちとの再会にみなさん最初は驚いていました。

しかし、鬼さんたち思ったほど怖くない？意外と優しい？と気付いたのか徐々に笑顔になる方々が増えていきました。

2年ぶりの鬼さんと一緒にハイチーズ！みんなからたくさん豆をもらった鬼さんたちは寒空の中お外へ去っていきました。

来年も鬼さん来てくれるかな？それとも福の神？

楽しみに待ってまーす！  
(めぐみ棟 保育士 柳有似子)



「鬼さん久しぶり！」



「また来年も来てね！」

## 2023年度 入所行事予定

4月	14日(金)	イースター	9月	1日(金)	誕生会	12月	13日(水)	入所クリスマス
	21日(金)	誕生会		8日(金)	久山なないろの会	1月	12日(金)	誕生会
5月	12日(金)	誕生会		23日(祝・土)	開園祭	2月	2日(金)	節分
6月	23日(金)	誕生会	10月	6日(金)	誕生会		16日(金)	誕生会
7月	7日(金)	七夕・誕生会		18日(水)	秋のつどい	3月	1日(金)	ひな祭り
	12日(水)	夏まつり		19日(木)	秋のつどい		15日(金)	誕生会
	13日(木)	夏まつり	11月	10日(金)	誕生会	※予定は変わることもあります。		
8月	18日(金)	誕生会	12月	1日(金)	誕生会			



# めぐみ棟より

## 「今日の利用者さんとの関わり」

今日は利用者さんとコミュニケーションを行いました。今月の課題はお弁当作りです。

お弁当と言っても本物ではなく花紙を丸めたり、スポンジを切ったりして作ります。

私は利用者さんと鮭の切り身を作りました。私が花紙を折って利用者さんには両面テープで止めていただきました。テープがうまく止まらないところを補助して完成。



「おにぎりできたよ」

その後もウインナーやおにぎりを一緒に作りお弁当を完成させました。写真を撮った時の利用者さんの笑い顔、喜んでいたように見えました。

午後からはバスハイクに行きました。

自分自身、園に入って初めてのバスハイクで少し緊張もありましたがその緊張もすぐに吹き飛びました。バスの中で利用者さん

が好きな歌を流すと「はいはい」と利用者さんが歌われていたからです。私も利用者さんと一緒に歌ったりしてドライブを楽しみました。

ドライブの最終スポットは長谷ダム。皆さんで景色をみて楽しみました。

コロナが少しずつ収まりこういった機会が増え利用者さんとの活動の機会が増えたことに感謝しています。今後はまだ体験していない運動会や開園祭なども参加してみたいです。

(めぐみ棟

介護福祉士

富田裕規)



「お弁当出来上がり★」



# ひかり棟より

## 「パーパー山・ときどきトミタ」 「得意な髪形？坊主一択です」

新型コロナウイルスによって様々な生活の慣例が変わりました。様々な生活の慣例が変わりました。様々な生活の慣例が変わりました。

園での生活の変化の一つとして、「髪切りを行う業者さんが病棟に入ってこれない！」という事も変化として出てきました。そこで今日は「散髪」についてのお話です。

現在、各人所棟ではサービス管理を担っているスタッフが散髪を行っています。勿論、理容師や美容師の資格は持っています。そんな感じかな？の感覚一つを頼りに、たどたどしく行っていました。回数を重ねる中でスタッフの皆さんや面会



なので、斜めになっていたり前髪が短すぎたり揃えて切れない時が多々ありますが、許して頂ければ幸いです☆ひかり棟では「前髪が眼に入らない！」をモットーにやや短めにさせて頂いています。(ちなみに題名の「トミタ」さんは、美容師の資格を持たれた、ひかり棟のパートさんです。切り方を教えてもらったり、たまに散髪に入ってもらっています。)

(ひかり棟

サービス管理責任者

介護福祉士 嘉村由香)



よく晴れた2月28日…

2022年度通所成人式が行われました。今年度は4名の方が成人され、振袖やスーツを着て式に出席されました。

当日は第1療育室・第2療育室の皆さんとお祝いすることが出来ました。成人を迎えられた4名の方おめでとうございます。

皆さんが健康で楽しい毎日が過ごせるよう通所スタッフ一同心より願っています。



「成人式会場 沢山の方がお祝いしてくれました」



午後の活動では、保護者の方も参加して下さり皆さんと一緒にピアノでリトミック遊びを行いました♪



2023年度 通所行事予定

4月5日(水)	始園式	10月12日(木)	災害避難訓練
5月29日(月)~6月2日(金)	運動会活動	12月15日(金)~21日(木)	クリスマス活動
7月31日(月)~8月4日(金)	夏祭り活動	2月26日(月)	成人式

※予定は変わることもあります。



# 重症者ホームひさやまより

## 「クリスマスディナー」

12月23日、ホームではクリスマスディナーをいただきました！  
 本来のクリスマスより早いです  
 が先取りしちゃいました。クリスマス  
 スイブイブですね。

ベランダにはイルミネーション  
 が点灯し、リビングには大きな  
 雪だるまの飾りやクリスマスツリ  
 ー、かわいい天井装飾がより気分  
 を高めてくれます。クリスマスソ  
 ングなんかも流しちゃいませう  
 そんな、クリスマスディナーのメ  
 ニューはパスタ・フライドチキン・  
 ポテトサラダ・カップスープ・手  
 作りグラスケーキ・ジュースでし  
 た。とても豪華ですね。



パスタソースは文句なしのルー  
 レットで決定しました。目の前に  
 並んだご馳走に笑顔が絶えませ  
 ん。フライドチキンを手で持って  
 かぶりつく方もいらっしやれば最  
 初にケーキが食べたくてケーキば  
 かり気になる方もいらっしやいま  
 した。



あんなにたくさんあったのにみなさんべろ  
 りと完食されました。とても楽しまれたよう  
 です。  
 みなさんクリスマスの夜はサンタさんに何  
 をお願いして眠られたのでしょうか？  
 入居者のみなさんにとって思い出に残るク  
 リスマスになったことと思います。

(重症者ホーム 介護福祉士 柳 裕介)



## 「糸島スイーツグルメ旅」

去年3月の志賀島ドライブ以  
 来、中々外出する予定が組めず早  
 いもので約1年が過ぎてしまいま  
 した。約1年ぶりとなる今回のバ  
 スハイクでは、糸島スイーツグル  
 メ旅をテーマに海と山の景色を楽  
 しみながら、最近流行りのスイー  
 ツも楽しんできました。



皆さんは、最近の流行りのス  
 イーツはご存じですか？「クロツ  
 フル」と言われてイメージ出来た  
 方は中々のスイーツ愛好家ですね  
 簡単に説明すると、クロワッサン  
 生地のワッフルにパンケーキのよ  
 うにアイスやフルーツが乗ってい  
 るものです。車の中でスイーツを  
 堪能した後は、海を眺めながら皆  
 で記念撮影しました。

冬の海の風は少々堪えました  
 が、久々の外出でもあり、利用  
 者の皆様には良い刺激になったも  
 のと思います。コロナも落ち着き  
 これから少しずつ外出の機会が増

えてくる事を願い、職員一同利用  
 者様が楽しんで頂ける様色々企  
 画していきたいと思えます。

(重症者ホーム 介護福祉士 田代未来)



# 新入職員の紹介

5名の新しい仲間をお迎えしました。ご紹介いたします。



- ① 名前・職名・部門配置
- ② 久山療育園で働くことについての抱負
- ③ 長所・短所
- ④ 利用者の方や家族とどのように関わりたいですか？



- ① 山本 悠雅(看護師 めぐみ棟)
- ② 利用者の方とご家族の方に笑顔になつていただけるように頑張ります。
- ③ 長所…思慮深いところです。
- ④ 利用者の方とご家族の方の気持ちに寄り添えるように関わりたいです。



- ① 高田 美穂(看護師 ひかり棟)
- ② 利用者さんが平穏で笑顔あふれる日常を送れるよう看護を提供したいです。
- ③ 長所…明るくまじめ
- ④ 利用者さんやご家族に親しみを持たれるよう関わり看護を行ってきたい。



- ① 宇都宮 真奈(児童指導員 ひかり棟)
- ② 利用者さんが安心して生活出来るように多職種と連携しながら頑張ります。
- ③ 長所…前向きな性格
- ④ 福祉の視点を忘れずに利用者・家族に寄り添った支援をしていきたいです。



- ① 橋本 美香(看護師 めぐみ棟)
- ② 利用者さんに寄り添い、少しでも多くの安らぎを与えられる様に頑張りたいです。
- ③ 長所…ポジティブ思考
- ④ ご家族の気持ちに寄り添い、利用者さんにとって心地良い環境を心掛け、ご家族や利用者さんを笑顔にしていくお手伝いができたらと思います。



- ① 徳田 杏香(准看護師 ひかり棟)
- ② 利用者様一人一人に寄り添い笑顔で頑張ります。
- ③ 長所…明るくよく笑う
- ④ 利用者様、ご家族の意思を尊重し、笑顔で関わりたいです。

## ミットレーベン・ネットワークより

### コロナ禍でのボランティア活動

コロナ禍での暮らしも、少しずつ元に戻りつつありますが、皆様、いかがお過ごしでしょうか。昨年度もご協力をいただき感謝申し上げます。

街頭で募金を呼びかける活動をしていたり、反応が鈍くなったと感じています。コロナ禍によって人々の生活も意識も縮んでしまい、他者に対する配慮が減ったようです。久山療育園を支援する私たちの活動も、多くの制約を受け、「愛の手を」届けることができなかつたと反省しています。まだ確定的なことは言えませんが、2023年度は少し回復すると期待しています。ただ、最も弱い人たちに寄り添う活動なので、感染のリスクを考えると、一挙にというわけにはいかないでしょう。引き続き、皆様への活動へのご参加とご協力をよろしくお願いいたします。

「ミットレーベン・ネットワーク」の最も大きな行事である、夏のワークキャンプについてお知らせします。内容は1日ですが、昨年度のを拡大して、午後の作業後のバーベキューで締め括りたいと考えています。今からご準備ください。宿泊に関しては、「5類」移行後の対応が未確定でまだ見



写真は、左から岩永センター長、宮崎理事長、伊原ミットレーベン・ネットワーク会長

通せない状況です。詳細は、これから追ってお知らせいたします。8月11日(金、休日)「一日ワークキャンプ」受付、草刈り、その他の作業、昼ごはん、作業、バーベキュー、その後解散

2023年度もワークキャンプ用のTシャツを作成し、参加者に配布する予定です。

なお、3月の理事会終了後、2022年度の街頭募金(204,745円、2月分まで)を、久山療育園に手渡しました。  
会長 伊原幹治

ご協力ありがとうございました

(2022年12月1日〜2023年2月28日) 敬称略

【法人】

一般献金

NPO法人障がい者の自立を考える会、愛の国保育園、青森バプテスト教会女性会、青山学院初等部、青山学院中等部、あかし幼稚園、阿部直子、有明キリスト教会、飯田節子、石垣幸枝、伊集院幼稚園 磯寄佳果、市川八幡キリスト教会、市川幼稚園ひかりの家学園、糸島聖書集会、梅崎正広、鷗友学園女子中等高等学校奉仕委員会、大久保バプテスト教会、大鶴敬治、大牟田バプテスト教会、大牟田フレンドシップキリスト教会、尾崎啓三、折尾愛真高等学校看護専攻科学友会、(学)西南女学院、かたえキリスト教会、(学)大牟田バプテスト学園、(学)西南学院、(学)光の丘幼稚園、(学)福岡女学院、(学)汀幼稚園、(学)弥生幼稚園、(学)三育学院東京三育小学校、金井敏男、金子純雄、(株)一粒社ヴォーリズ建築事務所、関西学院宗活動委員会、企救バプテスト教会、菊池孝子、菊池直樹、北九州キリスト教会、北白川いずみ保育園、木下由紀子、草苑幼稚園、恵泉バプテスト教会、古池節子、高知伊勢崎キリスト教会、郡山コスモス通りキリスト教会、こひつじ幼稚園、在日大韓基督教会博多教会、在日大韓基督教会福岡中央教会、相模中央キリスト教会、篠栗キリスト教会、品川バプテスト教会、柴田公文、(宗)日本バプテスト伊集院キリスト教会、(宗)日本基督教団福岡城東橋教会、白垣充子、神愛幼稚園、周船寺第二幼稚園、周船寺幼稚園、清星幼稚園、清星幼稚園保護者会、西南学院キリスト教活動支援課、西南学院舞鶴幼稚園、西南学院高等学校母の会、西南学院中学校母の会、西南学院中学校・高等学校、西南学院バプテスト教会、西南女学院大学短期大学部付属シオン幼稚園保護者会、西南幼稚園、西南幼稚園母の会、聖路加国際病院礼拝堂、仙台バプテスト教会幼稚園、捜真女学校高等

学部・中学部、曾根崎正剛、高橋香代子、高松太田キリスト教会、田川賢二、玉川勝己、筑紫野南キリスト教会、調眞琴、塚本吉興、田隈バプテスト教会、土地家屋調査士法人エビス鳥飼バプテスト教会、ドレーパー記念幼稚園、内藤慶治、中垣路津子、西落合キリスト教会、日本キリスト教会福岡城南教会、日本キリスト教団長崎銀屋町教会、日本基督教団東村山教会、日本基督教団日野台教会、日本基督教団門司大里教会、日本基督教団八幡西教会、日本バプテスト厚木教会、日本バプテスト小倉キリスト教会、日本バプテストシオン山教会、日本バプテスト鹿児島基督教会、日本バプテスト女性連合、日本バプテスト仙台基督教会、日本バプテスト東熊本キリスト教会、日本バプテスト連盟諫早キリスト教会、日本バプテスト連盟久留米キリスト教会、日本バプテスト連盟大分キリスト教会、日本バプテスト連盟南光台キリスト教会、日本バプテスト連盟宮崎キリスト教会、日本バプテスト連盟大分キリスト教会、日本バプテスト連盟東大阪キリスト教会、日本バプテスト連盟広島西キリスト教会、日本バプテスト連盟南名古屋キリスト教会、日本バプテスト連盟洋光台キリスト教会、直方バプテストキリスト教会、野方キリスト教会、波多野陽子、花野井バプテスト教会、バプテスト東福岡教会、春口和子、東福岡幼稚園、光の子幼稚園、久山療育園保護者会、久山療育園手作品売上、福岡市民クリスマス実行委員会、福岡城西キリスト教会、福岡女学院幼稚園、福岡女学院看護大学宗教部、福岡女学院中学校・高等学校、福岡西部バプテスト教会、福岡中部教会、福岡中部教会婦人会、福岡中部教会付属養巴幼稚園、福岡南キリスト伝道所、福田靖、二日市栄光キリスト教会、船附啓一、本田光三、島バプテスト教会、水野隆代、水戸バプテスト教会女性会、宮井武憲、茗荷谷キリスト教会、村津俊博、めぐみのその幼児園、八代バプテスト伝道所、安永智代、安増和子、柳

【重症者ホーム】

一般献金

田泰彦、八幡バプテスト教会、山形南部教会婦人会、山口正夫、山崎工、山下憲一、山田雄次、百合丘めぐみ幼稚園、匿名、横山友美、ラディット(株)、若松バプテスト教会、稚内ひかり幼稚園・きらきら保育園 (以上4, 442, 414円)

【施設】

一般献金

自動販売機売上献金、神代曉宏、重症者ホームひさやま家族会、曾根崎正剛、立石有梨佳、匿名、中根史子、久山療育園来久の会、久山療育園献金箱、矢野和美 (以上347, 962円)

献品

BARBERSHOPイシバシ(タオル)、イオン九州(株)イオンモーター福岡(お菓子他)、磯部菜摘(クリスタルフォトフレーム)、大井バプテスト教会女性会(タオルエプロン)、茅野頌二(バスタオル)、くぼらコーポレーション(クリスマスケーキ)、久保山敬子(タオル)、グルーホームひさやま保護者会(米他)、古後明朗(エプロン)、児湯キリスト教会女性会(タオル他)、相模中央キリスト教会女性会(枕カバー他)、さつま精肉店(タオル)、西南学院高等学校後援会母の会(タオルエプロン)、瀬尾江(絵本)、全国社会福祉協議会(マスク他)、藤寿(衣類)、常盤台バプテスト教会(エプロン他)、西一枝(タオルエプロン)、西日本高速道路(九州支社(カレンダー)、西日本新聞民生事業団(クリスマスケーキ)、平尾バプテスト教会文具他)、福岡友の会(タオル他)、福岡丸本(クリスマスケーキ)、福田靖(タオル)、防府バプテスト教会(タオルエプロン)、松井恵子(電子ピアノ)、松尾国利(紙オムツ)、山崎製パン従業員組合福岡支部(クリスマスケーキ)、匿名(リンゴ)、ロジテム九州(株)(クリスマスケーキ) (以上0円)

献金申込先

- 《郵送》  
社会福祉法人 バプテスト心身障害児(者)を守る会  
〒811-2501 福岡県糟屋郡久山町大字久原 1869 久山療育園重症児者医療療育センター内 ☎(092) 976-2281(代)
- 《郵便振込》郵便振替【01720-8-24404】名義：バプテスト心身障害者を守る会
- 《銀行振込》西日本シティ銀行久山支店 普 71888 名義：バプテスト心身障害児(者)を守る会 理事長 宮崎信義
- 《ホームページ》当センターホームページから、クレジットカードによる寄付が可能となっています。「寄付金のお願い」より開いてください。また、郵便局振込用紙もパソコン画面よりダウンロードすることができますのでご利用ください。

個人、会社共に免税の対象になります。メール：hisayama@hisayama-smid.jp

## 「この子らを世の宝に」

歯科医師 緒方克也



私が初めて久山療育園を訪れたのは昭和55年1月5日の午後でした。あらかじめ電話で連絡していたためか玄関で当時の小山和子看護部長が待つておられ、両手を広げて笑顔でよく来てくれた、心から待つていたと歓迎して頂きました。その時から私の久山の歴史が始まりました。週に一度の久山町久原の田園と空、風は私の心の潤いになりました。

博多駅前で障害者歯科を専門として歯科医院を開業し、その半年後に非常勤の歯科医師として療育園に就任したのです。当時検査室が歯科室に充てられ、寄付による治療椅子もありました。当時園児の平均年齢は11歳ぐらいで、自院の歯科衛生士栗原多恵さんと早速全員の検診から始めました。

歯科治療のめどを立て、手つかずであったむし歯の治療の多くは全身麻酔を用いて行い、当時の園長の多田俊作先生には大変良く理解していただきました。おおよそ1年かけて利用児の口腔はとてもきれ

いになり、悪臭のない重症児施設として多くの見学者が訪れました。また、摂食についても当時は畳に利用児を寝かせ、口の上からご飯を流し込むという食事でしたが、きさく工房の松枝氏らとともに座位保持椅子の設計に携わり、座位での食事に変えていったのも画期的な取り組みでした。

生活棟では当時の北筑前養護学校の分校が園内にあり、利用児たちが教育を受けている姿をしばしば目にし、重症児の教育とはどうするのだろうかという興味をもって見ていました。それをきっかけに教科書はあるのかとか、指導要綱には何が書かれているのかなどと専門外のことに関心を持ち私なりに考えました。

久山療育園重症児者医療療育センターに在籍して43年、非常勤でしたがそれなりにいろいろ経験しました。重症児の教育は、まず本人が自分という存在に気づくことが第一だと思います。そして自分の体と心に気づき、そのあと周りの人や物を知ることが大切だと思えました。その支援を教

育と医療から行うのが重症児施設と感じました。歯科もその中の一員で、食べる機能の発達と介助の仕方を何度も職員にお話ししました。そして日本障害者歯科学会で重症児の口腔ケアの考え方を話し、久山での取り組みを紹介すると数年で全国の施設に広がり、久山から発信した情報が全国の重症児者に届いたと内心嬉しく思ったものです。

福祉に従事するものはそのための知識と技術だけでなく、心が必要です。心がなければこの仕事の大変さについて行けなくなりません。その心を誰が育てるのだろうかという視点で見えていました。看護師をはじめ保育士、療育員など多くの職員が携わり、多くの職員が途中で辞めていきました。私が来て10年ほどたったころ、重症児の命の意味は何んだらうと考えることがあり、職員の何人かに尋ねたりもしました。M i t L e b e n は園の合言葉です。共に生きるは誰とともに生きるのだろうかという道にしばしば考えたことでした。持論ですが、重症児者の命は私たちに託しての命のモデルです。そして彼ら／彼女らが幸せであることが地域社会の豊かさを表します。ですから、重症児者の命は私たちに託して宝物と言えます。重症児者の命は

神様からのメッセージだと思えます。私が40年以上園に關わって頂いたものはこの想いでした。現在の園の玄関奥に聖書の言葉が掲げられています。「目に見えるものよりも見えないものに意味がある。見えるものは一時的であるが、見えないものは永遠だから」と。形あるものは何れ全て消えゆく。しかし、形のない例えば愛は永遠に続いているという意味です。ここでわかるのは

M i t L e b e n は神様とともにという意味です。重症心身障害者が神様からのメッセージとして世に送られ、神様に生きることを許されて神とともに生きる園が久山療育園という意味です。私たちはその命をどう祝福できるかを問われているのかなと思えました。ちなみに私は信徒ではありませんが一人の人間としてそう感じたものです。昨年亡くなった鈴木伸事務局長とこの話で大いに盛り上がりました。もともと彼が9割しゃべり、わたしは1割という会話でしたが、とても楽しくお話ししたものです。

重症心身障害者の横に座っているの妙に心が落ち着きます。昔はそんな時間がありました。彼ら／彼女らは私自身のモデルと感じたのです。私自身が何もできない人間であることを教えてくれます。そう感じると何かとても安心して、そんなにあくせく頑張つてあなたに何ができると言われていたように、見透かされた心を隠しようがないと欲をあきらめることがよくありました。私にとって園の利用者たちは心を教えてくれる先生でした。

役目を終えて天に召された園の利用者もたくさんいました。役目はわが国の障害者福祉の在り方に何かを示唆することでした。その力も受けて私は歯科医療の世界から障害者福祉の世界に移り、その中で障害者福祉の在り方にもっといい考えはないかと思案しています。多様性とかインクルーシブといいますが、それは制度として広がるのではなく文化として定着して初めて意味あることですから、数十年かかることでしょう。

お別れに園で出会ったすべての利用者の皆様と職員の皆様方に心より感謝を申し上げます。私は終活の歳になりました。のどかな久原の空と風を懐かしい思い出したいものです。ありがとうございます。



藤田 英彦

はつきり言っておく、わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。  
(マタイによる福音書第25章40節)

宮崎理事長が、最近『ペシャワール会報』153号、154号に「若き日の中村哲医師」と題して投稿されています。

2019年12月4日、心ない現地アフガン人テロの凶弾に倒れた中村哲医師について、少年時代からの友でなければ語られない事柄を、宮崎理事長ならではの細かい筆致で書き表しておられます。

『ペシャワール会』「若き日の中村哲医師」に触発されて、藤田が聞かされていた「若き日の中村哲さんと宮崎信義さんに関わる話」を紹介します。

お互いに福岡市近郊古賀に育った両氏は、少年時代共に

西南学院中学校に学び、聖書の学びと共に教会に行くことを薦められた教会が、香住ヶ丘バプテスト教会でした。

香住ヶ丘バプテスト教会の藤井健司牧師は、幼少時代に盲目となり、お母様から育てられ、東京の盲学校時代に、目白ヶ丘教会で熊野清樹牧師からバプテストマを受けて献身し、西南学院大学神学科に学び(たまたま私は西南学院寮の隣部屋で親しくなり、彼が結婚したお連れ合いも、我々夫妻と70年もの親友)卒業後母上と住む香住ヶ丘で開拓伝道を始めます。しばらくして教会堂と牧師館が完成しますが、その直後の香住ヶ丘バプテスト教会を中村、宮崎二人の少年は「その頃未だ若き日の盲人牧師であった藤井牧師になつて、一週間に何度も夜遅くまで通い、その頃福岡盲学校の教師でお元氣だったお母様や、藤井牧師に可愛がられて藤井牧師が好んだクラシック音楽のレコードを、二人の少年は神妙に牧師と共に聴いたりしたと言つてことです。そして、香住ヶ丘バプテスト教会の特別伝道集会で、クリスチャンになる決心をし、

西南学院のフェナー宣教師からバプテストマを受け、共に生涯クリスト・イエスの福音を实践する医師となつておられます。

154号に、1967年7月17日、ルーテル阿蘇山荘での九州学生YMCAの夏季学校の記載があり、この集會有意義で楽しかったことについて私も、多くの方から聴いています。「講師は九州大学文学部哲学科の滝沢克己教授で『インマヌエル(神と共にいます)』という基調講演があり、「滝沢教授は若き日のドイツ留学時に、20世紀最大のキリスト教神学者と言われるカール・バルトに師事された方です。」とありました。記事にはありませんでしたが、その時のチューターとして九州大学大学院生 寺園喜基、福岡バプテスト教会牧師 安藤榮二ご両名が学生たちと共に大いに話し合ったようです。お二人共、滝沢教授が前年度に学外教授として教えておられた西南学院大学神学生でした。阿蘇の学Y集会に参加した人たちは、私の知る限りでも数人もおられます。熊本大学からも参加しました。

て、遅ればせながら『久山療育園友の会』に直接参加しようとして訪れ、確か「ひかり棟」の部屋天井一杯に大きな字で、この八木重吉の「うるさか ないよ」の詩が書かれてあるのを見て感動したことがあります。多分、大きなひらがなの字で天井に書かれてあったのは、重症児たちが食事等の時、看護師さんや介護士さんの腕に抱かれて天井を見上げ、この詩を読んでもらっていたのでしよう。

あかんぼもよびな  
八木重吉

さて  
あかんぼは  
あん あん あん  
なくだろうか  
ほんとうに  
うるせいよ  
あん あん あん  
うるさか ないよ  
うるさか ないよ  
よんでるんだよ  
かみさまをよんでるんだよ  
みんなもよびな  
あんなに しつこくよびな



# ボランティアだより

## 『令和4年度 ボランティア活動の振り返り』

- 前年3月14日〜 活動再開
- 5月12日〜 活動中止
- 5月26日〜 一部活動再開(午前二時間のみ)
- 7月25日〜 活動中止
- 9月20日〜 一部活動再開(午前二時間のみ)
- 10月17日〜10月21日 活動中止
- 10月24日〜 一部活動再開(午前二時間のみ)
- 10月27日〜 活動中止
- 1月23日〜 一部活動再開(午前二時間のみ)

在籍数95名。これまで通り、来ていただけるよう登録は自動更新させていただいております。

昨年度も、コロナ感染の状況により活動再開、中止を繰り返す1年間でした。

そのような中でも、多くのボランティアの皆様が短時間での活動でしたが、来園して頂き、洗濯物たため、裁縫、活動で使用する飾りの作製等、ボランティアの方々の働きに感謝の言葉しかありません。

今年度5月には、新型コロナウイルスも「5類」への引き下げが言われています。

皆さまのボランティア活動への熱い思いをしつかりと受け止め、活動の継続・新規活動者の開拓の意味も含めて、「ボランティア講習会」の再開も検討しているかと考えています。また、昨年度、実施回数少な

かった「オンラインによる繋がり」というような、新しい形での活動も取り組むようにしています。

まだまだ、感染の状況等で油断はできませんが、そのような中で、自分たちに来ることを探りながら、取り組んでいきたいと思えます。

最後になりましたが、ボランティア活動の際に、着用するスリッパを購入しました。サイズは多く準備していませんが、「滑りにくく履きやすい」をイメージして準備しました。ボランティア専用のスリッパ入れの場所を確保しましたのでお気軽にご利用ください。

(ボランティア委員長 島津洋昭)

## 【専用メールアドレス】

ボランティアに関するお問い合わせの方法として、専用メールを開設しています。「興味があるけど、どんなことするのか心配…」「行ってみたいけど、手続きは？」など、いつでもご質問いただけるようになっています。お気軽にご利用ください。

[bora@hisayama-smid.jp](mailto:bora@hisayama-smid.jp)

## 歩 行 器

年度替りのこの時期、何かと人の動きもあり慌ただしく過ごしています。と同時に、春の陽気も感じられ時折温かい日が訪れています。こんな日は、ご利用者が外で活動を行っているのを目にする、なんとも心が和やかになつてきます。

先日、小さなコンサートに参加しました。懐かしい昭和の歌が歌われ、心とむ時を過ごしました。音の響きは不思議と体に伝わって、なんとも言えない心地よい振動を与えてくれます。優しいメロディも不思議と心を癒してくれます。久山療育園でもコロナ以前はこうした音楽に身を寄せる機会が多くあったんだろうなと想像しつつ、重症児者の方々と共に音楽を分かち合うときが来ることを祈ります。

感染防止のマスク着用も3月15日からは個人の判断となりましたが、感染リスクが高い重症児者の方々とそのお世話にあたる人にとっては、まだまだ予防対策を続けていかないとはいけません。マスクを外して自由に街を歩くことは一般の人々にとっても素晴らしいことだと思います。しかし、一方で感染防止に引き続き気を配っていかねばなら

ない人たちもいるのです。時代の変化の中で、多様性が尊重されるのが進んでいる昨今ですが、感染弱者ともいえるべき高い感染リスクを負っている者たちへの配慮も忘れて欲しくありません。「愛の手を」を発行し続けていくのは、決して強い者といえない側からの言葉として、重度の障害を負った人たちがその存在を忘れられ、置き去りにされないためにも大切な情報発信であると思います。新年度を迎え、世の中も変化していくことでしょう。こうした中で、私たちが重症児者と共生き道を切り開いていきたいと願います。

(T・N)

重症心身障害施設  
久山療育園ホームページ  
<http://hisayama-smid.jp/>

